### Q3

### 戦争について自分事として考えてもらうためのきっかけのひとつとして、やはり体験者のお話というのは大事なんですね。

　実際に体験した人たちの口で語られる話や書かれたものを見たり読んだりするっていうのは、迫ってくるものが全然違うと感じています。

　ですから、それらを何らかの形で残していきたいと考えて、戦争体験者の証言を動画にまとめ、DVDに収めたり、YouTubeにアップしたりしています。

　収録した動画では、単にお話を聞くだけではなくて、その話に関係のある映像や、体験者の方が描かれた絵を挿し入れるなど、全体として分かりやすい内容としており、教材としても使えるように工夫をしています。

### Q4

### 戦後80年が経とうとしています。日本では戦争を体験していない人がほとんどなわけですが、戦争や平和のことについてもっと知ってほしいといった思いはありますか？

　館長に就任してから、戦争について様々なことを見聞きしてきた中で思うのは、単に知識としてだけじゃなくて、自分事として考えられるように知ってほしいなと。

　例えば、子どもたちの来館者アンケートを拝見すると、「展示を見て、自分たちがいかに平和に暮らしてるかが分かった」 とか、「日常が平和だっていうことを再認識した」といった感想を見かけるので、戦時中の悲惨な状況を知って、それと比べて、今自分たちは恵まれているということを感じてるんだろうなと思います。

　もう少し言うと、「戦争」や「平和」といったことに限らず、環境や貧困、人権の問題をはじめとした世の中にあるさまざまな課題についても、「知ること」が第一歩だと思っています。

　ただ、あらゆることを深く知るということではなくて、自分の行動を決める時や、社会の中での意思決定に自分が参加するときに、自分の考えを深める、あらためて調べてみる、そういうことを意識ができるぐらいには知ってほしいなっていうのは思いますね。

### Q5

### 私たち一人ひとりができることとしては、どんなことがあると思いますか？

　いろんなことがあるとは思いますが、ベースにあるのは、「相手の立場に立つ」ということだと思います。

　相手のことがわかってないと、相手の立場に立ちようがない。差別もそうだと思いますが、出身国だったり、その人が持っている文化的な背景などがわかっていないと、その人がどういう考えで言っているのか、行動をとっているのかということはわからないので、そこは知っていかないといけないと思います。

　相手のことが分からないと対話にならないし、結果的に力で治めるといったことにつながっていくのではないかと思います。

　相手のことを知ろうとする姿勢が根本に必要で、相手のことを知り、それを基に考えて、そして対峙をするということが、人権とか平和とかいったことに限らず、いろんなものについて共通する話かなと思いますね。

　平和ということに話を戻すと、「世の中が平和であるためには、こうしたらよい」といった正解はないと思うのですが、相手のことを理解しようとし、そのために対話をする、そうして互いのことを知る。そこで対立があれば互いに歩み寄る。そういったことができる人が一人でも増えれば、争いごとも減っていくのではないかと思います。

#### 戦後80年を迎えるこの機会に、まずは戦争について知ることから始めてみませんか？



戦争体験者の動画を見てみる



「平和学習デジタルコンテンツ」で戦争について学習してみる（学校向け）



「ピースおおさか」で戦争に関する展示を見る